



**MORESCO**

第54期

# 中間報告書

平成23年3月1日～平成23年8月31日

Interview

## 社長インタビュー

グローバル展開のその先に広がる  
新たな可能性。

株式会社 **MORESCO**

水と油と高分子のスペシャリストとして社会に貢献する

# 小さくとも世界に きらりと光を放つ企業を目指して

## 経営理念

- 1 私たちは「ユーザーのための研究開発」をモットーに境界領域におけるニーズに応えることによって、いつの時代にも社会に貢献できる企業を目指しています。
- 2 私たちは境界領域のスペシャリストとして、新しい分野へも展開をはかり、新たな機能とサービスを提供していきます。
- 3 私たちは、人間性を尊重する環境づくりと、自由な発想によって新しい価値を創造することに喜びを分かち合える企業を目指しています。



To Our Shareholders

## 社長インタビュー

### 精力的なグローバル展開 その先に、新たな可能性が広がっています

#### ■ 震災を通じて気付かされた様々なこと

第54期中間報告にあたって、現在の経営環境についてご説明いたします。2月に中期経営計画(2011～2013年度)を発表した直後に東日本大震災が発生しましたが、中期経営計画の内容は変更することなく達成を目指して努力邁進しています。震災の影響で自動車産業が大きなダメージを受けたため当社もその影響を少なからず受けました。しかし、一方で紙おむつ等の衛生材に使われるホットメルト接着剤の需要は増加しました。自動車産業については7月以降回復基調にあります。中国経済の成長鈍化など予断を許さない状況が続いています。

今回の震災では、材料調達の問題が大きく取り上げられ、当社も他社と同様に苦労しました。ただ、当社の場合は研究開発部門が素晴らしいモチベーションをもって、わずか2カ月の間に別の材料を用いて同等の性能を発揮する代替レシピを開発し、ショートさせることなく納品できる体制を整えてくれました。研究開発部門を営業と購買が支え、三位一体となって危機を乗り越えてくれたことを非常に喜ばしく思っています。この代替レシピは、コストダウンにも直結するものであり、海外を含め、競合他社と競う



取締役社長

赤田 民生

えで今後当社の大きな力になってくれると確信しています。震災という危機に直面して改めて生産拠点の分散化についても考えさせられました。当社はこれまで合成系グリース基油やハードディスク表面潤滑剤などオンリーワンの製品により高収益を得てきましたが、オンリーワンだからこそMORESCOの生産拠点が被災した場合、お客様にご迷惑をおかけしてしまうことになります。いかにしてリスクヘッジを行うか、国内のみならず海外も選択肢に入れて、お客様に安心していただける生産体制を考えていきたいと思っております。

## 世界のMORESCOを目指して

### 国内、海外の新展開と新体制について

こうした生産拠点の分散、そして企業として更なるステップアップを目指して、国内では冷熱媒体の製造委託先である、エチレンケミカルを子会社化し、海外、インドネシアでは工業用潤滑油の生産子会社PT.MORESCO INDONESIAの設立、加えて紙おむつなどの衛生材料用ホットメルト接着剤に関する合弁会社PT.MORESCO MACRO ADHESIVE (予定)の設立に合意するなど精力的に活動しています。

インドネシアへはこれまではタイの現地法人からダイカスト用油剤等を輸出していましたが、今後は現地生産を行い、フォローアップすることでさらにシェアを伸ばしていきます。

また、自動車産業が成長すると必然的に金属加工の分野も成長するものです。そこで、同時に水溶性の金属加工油の販売強化にも取り組んでいきます。このように海外進出する際、日本で製造している製品レシピをそのまま現地で使用し、販売するケースもありますが、一方でこれからは現地のニーズに即した現地仕様の製品づくりを推進していきます。そのために必要となるのが、的確なニーズの把握と迅速な実行力です。そこで、タイ、中国、インドネシア、北米にある子会社の経営体制を見直し、それぞれの経営トップとショートパスでビジネスを展開できる体制を整えました。国内においてはこれまでの国際事業部を無くし、国内事業部が海外ビジネスに関して直接管理する体系に再編いたしました。これにより指示系統が明確化され、決断のスピードが格段に高まると期待しています。

## 厳しくも、今こそ動く時

### MORESCOを、日本を知る人を育てる

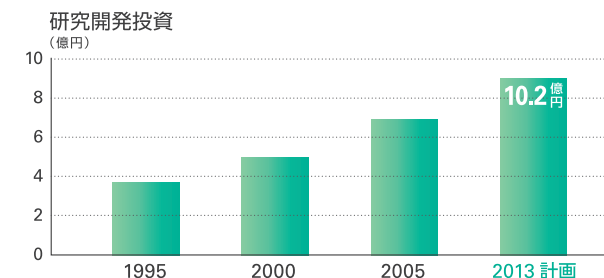
現地のニーズに即した製品づくりを行っていくうえで、もう一つ重要なのが人材の問題です。文化や人生観の違いをいかにして埋めていくか、そのために現地のエンジニアを確保し、本社の研究センターなどで働いてもらいたいと思います。まずはMORESCOを理解してもらい、日本人的発想も身に付けてもらったうえで自国に戻り、任務に就いてもらえば意思の疎通もはかりやすくなると思います。こうした試みを、将来進出する可能性の高いインドやブラジルも含めて進めようとしています。一方で、日本人でも海外で働きたいという意欲のある社員を積極的に採用していきます。人材の改革、これが実現してこそ、中期経営計画にある「多様な人材が織り成す活力のある組織を目指す」という目標が達成できると考えています。

### 新たなMORESCOファン獲得のために

一方で研究開発費については研究施設や設備などへの投資は継続し、産学連携にも力を入れ、ベーシックな

開発知識の習得に結びつけ、不足しているマンパワーを補っていきたいと考えています。また、「なぜそうなるのか」という理論武装をするために、大学教授で退職された方などを顧問に招き、肉付けをしていきます。

引き続き、厳しい状況下であってもMORESCOは常に前進し続けています。そして、それぞれの事業部門の責任者も上半期の落ち込みを挽回すると宣言してくれています。私は、その言葉を信じ、トータルで見た時にどうなのか、ということを考えながらしっかりとマネージメントしていかなければならないと考えています。これからも優れた新製品を通じて新しいお客様をMORESCOのファンにしていく、それこそが当社の普遍のテーマであることを忘れず、こだわり続けたいと思います。



## 1

## 「MORESCO USA Inc.」新オフィス開設

3月、アトランタに「MORESCO USA Inc.」の新オフィスを開設しました。これによりデトロイトの本社、ルイビルオフィスと合わせて、アメリカは3拠点体制となりました。アメリカだけでなく、メキシコ、南米・ブラジルまで広くカバーし、新市場開拓における万全の体制が整ったこととなります。



●デトロイト新オフィス(3F)

## 2

## 「PT.MORESCO INDONESIA」の設立

6月28日にインドネシアの生産拠点となる「MORESCO INDONESIA」の設立手続きが完了しました。現在、カラワン県チカンベック市に、自動車や二輪車生産に使われる潤滑剤の生産工場を建設中です。ダイカスト用油剤や金属加工油などを合わせて年間4000トンの生産能力でスタートを目指し、来年1月の稼働開始を予定しています。



●MORESCO INDONESIA完成予想図



## 3

## 「エチレンケミカル株式会社」の連結子会社化

当社千葉工場に隣接する自動車用成品メーカーのエチレンケミカル株式会社を9月1日付で連結子会社化しました。これまで冷熱媒体「ナイブライン」の製造を委託してきましたが、グループ化により連携が一層強化されます。また、エチレンケミカル社の設備や敷地を有効活用するなど、新たな展開を視野に入れています。



●冷熱媒体「ナイブライン」

## 4

## インドネシアに合併会社「PT.MORESCO MACRO ADHESIVE」を設立予定

インドネシアの経済が成長するとともに、今後、紙おむつ利用者もますます増え、当社のホットメルト接着剤に対するニーズが高まると予測し、9月26日、インドネシアにおいて接着剤製造会社を傘下に有するPT.Macrochema Pratama社と合併会社を設立することに合意しました。今後、現地でのホットメルト接着剤の生産を開始し、拡販に備えます。



●インドネシア合併会社に関する調印式

エネルギーデバイスプロジェクト発足&  
「有機デバイス用高バリア性封止材」のご案内

## 有機デバイス分野においてスピーディーな開発と、製品化を成し遂げるプロジェクトチーム発足。

近年、ディスプレイや電子ペーパー、メモリ、光通信用素子、センサー、そして次世代太陽電池などにも有機薄膜からなるデバイスが用いられています。しかし、この有機薄膜は水分や酸素等のガスにより、劣化や相分離などが起こりやすく寿命に課題があり、その課題を解決するためには高バリア性封止材をはじめ、機能性封止材が必要不可欠です。

今後、ますます期待がかかる領域ですが、現在の日本では「材料メーカー」、「電機メーカーに代表されるアSEMBリメーカー」との間で「技術の壁」があり、製品化が遅れるケースが発生し、世界に遅れをとっている状況でした。

当社は昨年11月にエネルギーデバイスプロジェクトを発足。このデバイスにおける実装用機能性封止材の開発とビジネス展開を行っています。独自のコア技術を活かし、企業間の隙間をMORESCOの技術力でつなぎ、顧客とコラボレーションを組み合わせながら製品化に尽力。さらには社外とのネットワーク活用と構築を推進しながら、ニーズの先取りと産学とのコンソーシアムの活用により新製品開発を加速していきます。

低い水分透過率でデバイスの長寿命化を叶える、  
有機デバイス用高バリア性封止材「モイスターカット」を発売。

今回ご紹介する「有機デバイス用高バリア性封止材」は、まさにそうした最先端の有機デバイス市場における課題解決を目指した製品です。「機能性ポリマーによる樹脂成分の高機能化」、「特殊フィラーの高密度充填」、さらには基材との相互界面領域における密着性などにより、水分の透過をコントロールすることで、極めて低い水分透過率を実現します。実装評価でも優れた封止特性を示し、デバイスの長寿命化を叶える製品として注目されています。今後、このような画期的な製品が、エネルギーデバイスプロジェクトによって作り出され、新たなビジネスにつながっていくと考えています。



●「モイスターカット」を使用した有機EL照明

## セグメント情報

## 前年同期比、売上高は4.3%増、四半期純利益は49.0%減

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、東日本大震災による急速な落ち込みから回復に向かっておりますが、欧米を中心に海外経済の減速懸念が浮上し、円高が進行するなど先行きに対する不安が強まっています。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、自動車産業を中心とする工場稼働率の低下により、潤滑油製品の売上が一時減少しました。一方、ホットメルト接着剤は、震災に関係する紙おむつの需要増で好調に推移

しました。海外におきましては、新興国で景気減速の兆しが一部見られ、中国、東南アジアでの当社製品の需要にも影響が出ました。

以上の結果、第2四半期連結累計期間の売上高は8,456百万円(前年同期比4.3%増)となり、利益面については、原材料の上昇を受け、経常利益は464百万円(前年同期比41.0%減)、四半期純利益は249百万円(前年同期比49.0%減)となりました。

## セグメントの業績概況

## 日本

## 前年比、売上高は6.5%増、利益は35.3%減

## ●特殊潤滑油

震災の影響により、自動車産業等を中心に大きく工場稼働率が低下した結果、ダイカスト用油剤の売上高の減少が見られましたが、第2四半期後半には回復が見られました。また冷熱媒体油の売上高が加算されたため、前年同期を上回る結果となりました。

## ●ホットメルト接着剤

主力である大人用紙おむつなどの衛生材向けが震災による増産に対応し、引き続き好調に推移しました。また、新規分野拡販の重点としております粘着剤は前年並みとなりましたが、自動車内装材用途は震災の影響から脱し前年同期比プラスとなりました。

結果、当セグメントの売上高は7,538百万円(前年同期比6.5%増)に。

セグメント利益は原料調達面で原材料価格の上昇していることにより、324百万円(前年同期比35.3%減)となりました。

## ●合成潤滑油

自動車用電装部品のベアリング軸受用グリースの基油として世界的にシェアが高い高温用合成潤滑油は、震災による国内自動車生産の減少の影響はありましたが、海外自動車生産の好調な伸びに支えられ、海外向けが伸ばした結果、前年同期を上回る売上高となりました。ハードディスク表面潤滑剤は、前年同期に好調であった大手顧客の生産調整のため、売上高は低調に推移しました。

## ●素 材

流動パラフィンやリチウムイオン電池のセパレータ生産向けが震災の影響を受け低迷しましたが、その後回復基調にあります。石油スルホネートは金属加工油メーカー向けが堅調に推移しました。

## 中国

## 前年比、売上高は1.6%増、利益は32.7%減

中国の工業生産の伸びは減速しつつありますが、高真空ポンプ油、金属加工用切削油剤、滑り止め加工用ホットメルト接着剤等の売上高が堅調に推移しました。

当セグメントの売上高は720百万円(前年同期比1.6%増)となり、セグメント利益は原材料価格の上昇により、76百万円(前年同期比32.7%減)となりました。

## 東南アジア

## 前年比、売上高は0.9%減、利益は47.9%減

東南アジアでは、自動車、二輪車市場の成長が著しく、タイでは東日本大震災の影響により自動車メーカー各社の減産による影響がありましたが、インドネシア等での生産台数の増加により、ダイカスト用油剤の売上も堅調を維持しております。また、自動車関連以外の用途に使用される切削油剤等も堅調に推移しました。

当セグメントの売上高は619百万円(前年同期比0.9%減)となり、セグメント利益は原材料価格の上昇により、26百万円(前年同期比47.9%減)となりました。

## 北米

## 前年比、売上高は4.0%減

北米では、景気の先行きが懸念される中、新たな米系顧客獲得の努力によりダイカスト用油剤等の売上高が増加しました。一方、金属加工油の添加剤に使用される石油スルホネートは円高等の影響を受け前年同期を下回りました。

当セグメントの売上高は72百万円(前年同期比4.0%減)となり、セグメント損失は8百万円(前年同期は1百万円の利益)となりました。

## 連結財務諸表

四半期連結貸借対照表 (単位:百万円)

科目	当第2四半期 平成23年8月31日現在	前第2四半期 平成22年8月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>7,433</b>	<b>6,778</b>
現金及び預金	934	653
受取手形及び売掛金	3,932	3,832
たな卸資産	2,314	2,047
その他	252	245
<b>固定資産</b>	<b>5,520</b>	<b>5,795</b>
有形固定資産	3,941	4,066
無形固定資産	533	582
投資その他の資産	1,046	1,147
<b>資産合計</b>	<b>12,953</b>	<b>12,573</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>4,909</b>	<b>5,251</b>
支払手形及び買掛金	2,854	2,919
短期借入金	1,070	1,277
その他	985	1,055
<b>固定負債</b>	<b>1,121</b>	<b>1,491</b>
長期借入金	355	515
その他	766	975
<b>負債合計</b>	<b>6,030</b>	<b>6,742</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>6,805</b>	<b>5,698</b>
資本金	1,526	1,310
資本剰余金	1,386	1,098
利益剰余金	3,894	3,478
自己株式	△0	△187
<b>評価・換算差額等</b>	<b>△111</b>	<b>△68</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>228</b>	<b>201</b>
<b>純資産合計</b>	<b>6,922</b>	<b>5,831</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>12,953</b>	<b>12,573</b>

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結損益計算書 (単位:百万円)

科目	当第2四半期 自平成23年3月1日 至平成23年8月31日	前第2四半期 自平成22年3月1日 至平成22年8月31日
<b>売上高</b>	<b>8,456</b>	<b>8,108</b>
売上原価	5,942	5,475
<b>売上総利益</b>	<b>2,514</b>	<b>2,633</b>
販売費及び一般管理費	2,085	1,953
<b>営業利益又は営業損失(△)</b>	<b>428</b>	<b>680</b>
営業外収益	52	138
営業外費用	16	31
<b>経常利益</b>	<b>464</b>	<b>787</b>
特別利益	6	6
特別損失	12	52
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>459</b>	<b>740</b>
法人税、住民税及び事業税	82	125
法人税等調整額	112	93
<b>少数株主損益調整前四半期純利益</b>	<b>266</b>	<b>522</b>
<b>少数株主利益</b>	<b>17</b>	<b>35</b>
<b>四半期純利益</b>	<b>249</b>	<b>488</b>

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科目	当第2四半期 自平成23年3月1日 至平成23年8月31日	前第2四半期 自平成22年3月1日 至平成22年8月31日
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△142</b>	<b>467</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△219</b>	<b>△192</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>307</b>	<b>△172</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△4
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>△55</b>	<b>99</b>
現金及び現金同等物の期首残高	890	504
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>834</b>	<b>603</b>

※記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

## 会社概要・株主情報

会社概要 (平成23年8月31日現在)

商号 株式会社MORESCO  
 設立 1958年10月27日  
 資本金 1,525,928,200円  
 従業員数 275名

本社及び事業所 (平成23年8月31日現在)

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町5丁目5-3  
 電話 078-303-9010(代表)

支店 東京支店／大阪支店  
 営業所 小山営業所／名古屋営業所／九州営業所  
 工場 千葉工場／赤穂工場

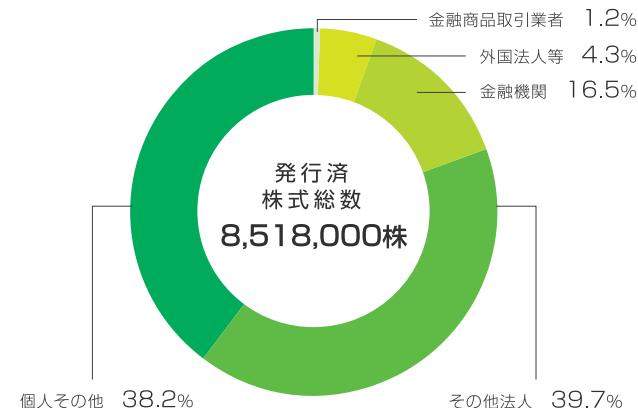
役員 (平成23年8月31日現在)

取締役会長 中野 正 徳  
 取締役社長 赤田 民 生  
 常務取締役 竹内 隆  
 常務取締役 作田 真 一  
 取締役 菊池 習 作  
 取締役 山地 一  
 取締役 高梨 雅 廣  
 取締役 両角 元 寿  
 取締役 米田 徳 夫  
 常勤監査役 富野 武  
 常勤監査役 本田 優  
 監査役 小沢 史比古  
 監査役 田村 英 信

株式の状況 (平成23年8月31日現在)

発行可能株式総数 ..... 20,000,000株  
 発行済株式総数 ..... 8,518,000株  
 株主数 ..... 2,592名

株式所有者別分布状況 (平成23年8月31日現在)



大株主 (平成23年8月31日現在)

株主名	持株数(千株)	株主比率(%)
松村石油株式会社	1,067.0	12.5
コスモ石油ルブリカンツ株式会社	503.0	5.9
日本曹達株式会社	365.0	4.3
MORESCO従業員持株会	333.1	3.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	332.9	3.9
双日株式会社	327.0	3.8
三菱商事株式会社	327.0	3.8
株式会社みずほコーポレート銀行	250.0	2.9
株式会社三菱東京UFJ銀行	250.0	2.9
株式会社興亜損害保険株式会社	221.4	2.6

持株比率は自己株式数(400株)を控除して計算しております。

MORESCO Group

## グループ会社

### 中国

無錫徳松科技有限公司  
無錫松村貿易有限公司  
莫莱斯柯花野庄鑄塗料(上海)有限公司

### 日本

株式会社マツケン  
株式会社モレスコテクノ  
株式会社モレスコサービス  
エチレンケミカル株式会社

### タイ

MORESCO(Thailand)Co.,Ltd.

### インドネシア

PT.MORESCO INDONESIA

### 北米

MORESCO USA Inc.

## Shareholder Memo

### 株主メモ

#### ●事業年度

3月1日～翌年2月末日

#### ●期末配当金受領株主確定日

2月末日

#### ●中間配当金受領株主確定日(中間配当を行う場合)

8月31日

#### ●定時株主総会

毎年5月

#### ●株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

#### ●同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
TEL: 0120-094-777 (通話料無料)

#### ●上場証券取引所

東京証券取引所

#### ●公告の方法

電子公告により行う

公告記載URL <http://www.moresco.co.jp/>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

#### 【ご注意】

◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。

株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

◎特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。

◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。